

2023（令和5）年度

事業報告書

自 2023年4月 1日

至 2024年3月31日

公益財団法人日本デザイン振興会

公益目的事業 1

(グッドデザイン賞に関する応募、審査、受賞対象の発表、表彰に係る事業)

①グッドデザイン賞事業

2023年度グッドデザイン賞は、新たに審査委員長に齋藤精一氏、審査副委員長に倉本仁氏、永山祐子氏を迎え、正副委員長3名の体制でスタートした。グッドデザイン賞の「発見」「共有」「創造」のサイクルを回していくにあたり、今年度の審査テーマとして、「アウトカムのあるデザイン」を掲げた。モノ・コトの境界線を越えて、アウトプットとしてのデザインだけではなく、デザインを生み出すプロセスや、創造の根底にある様々な哲学や挑戦を読み解いていこう、という趣旨である。デザインに関わる様々な立場の人・組織等が、その立場の違いを超えて共通のアウトカムを目指して社会をより良い方向へ変革させていける大きなうねりを起こしていることを、グッドデザイン賞を通じて社会に広く伝えていくべく、事業に臨んだ。

応募と受賞

2023年度グッドデザイン賞は4月4日から募集を開始した。応募期間中は、グッドデザイン賞の理念や応募方法を解説する説明会や個別相談会をオンラインで実施したほか、国内10箇所では対面での説明会を実施した。また、審査の視点を審査委員自らが解説するセミナーを計3回開催した。

5,447件のデザインに対して審査を行い、10月5日に1,548件の受賞およびベスト100ならびに金賞、グッドフォーカス賞の特別賞を発表した。また、10月25日にグッドデザイン大賞を発表した。

審査対象数：5,447件

受賞数：1,548件

受賞企業数：1,068社

特別賞の内訳

グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）：1件

グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）：19件

グッドフォーカス賞 [新ビジネスデザイン]：3件

(経済産業省 大臣官房 商務・サービス審議官賞)

グッドフォーカス賞 [技術・伝承デザイン]：3件

(中小企業庁長官賞)

同 [地域社会デザイン]：3件 (日本商工会議所会頭賞)

同 [防災・復興デザイン]：3件 (日本デザイン振興会会長賞)

審査体制

多様な応募対象を適切に審査するために、2023年度も様々な領域の専門家を新たに迎えて総勢98名の審査体制を整えた。二次審査会場は4年ぶりに幕張メッセに戻り、海外審査委員も参加した。

また、「グッドデザイン・ベスト100」を特別賞候補として明確に位置付けるため、特別賞選考の最終プロセスとして、「ベスト100プレゼンテーション審査」を実施した。



GOOD
DESIGN



グッドデザイン賞二次審査会場（幕張メッセ）



グッドデザイン賞二次審査会

フォーカス・イシュー

フォーカス・イシューは、グッドデザイン賞受賞対象の中から、今後の社会におけるデザインの役割と可能性を見出す取り組みである。9年目となる2023年度は、新審査員長に就任した齋藤精一氏のもと、大幅に内容を刷新した。正副委員長3名が自らディレクターとなり、外部から3名の有識者がリサーチャーとして参加。計6名が応募作品を横断的に見て、デザインの役割と可能性について思索を重ねた。最終的に「デザイン、政治、行政、企業にはどのような態度や動きが求められるのか」について、9つの「視点」から具体的な行動を提案する23の「提言」としてまとめ、全30ページによるレポートとして公開した。

- 2023年度フォーカス・イシュー・ディレクター
齋藤精一（2023年度グッドデザイン賞審査委員長）
倉本仁（2023年度グッドデザイン賞審査副委員長）
永山祐子（2023年度グッドデザイン賞審査副委員長）
- 2023年度フォーカス・イシュー・リサーチャー
中村寛（文化人類学者・デザイン人類学者）
野見山桜（デザイン史家・デザイン研究家）
林亜季（編集者・記者・経営者）

グッドデザイン・ベスト100

すべてのグッドデザイン賞受賞対象の中で、特に高い評価を得た100件を「グッドデザイン・ベスト100」として選出した。グッドデザイン大賞や金賞などの候補になるとともに、今後各分野を先導する起点となりうるデザインに位置づけられるものである。

グッドデザイン大賞

グッドデザイン大賞は、すべての受賞デザインの中から1件が選ばれ、テーマ性・時代性・社会性などの面でその年度のシンボルとなるデザインとして位置付けられる。2023年度は10月5日に5件のファイナリスト（大賞候補）を発表。10月25日の大賞選出会においてグッドデザイン賞の審査委員と受賞者による投票を実施し、これに10月5日から24日まで実施した一般による投票を加えた結果、有限会社オールフォアワンの「52間の縁側」が選出された。

GOOD DESIGN EXHIBITION 2023

受賞プロモーションの中核企画として、2023年度グッドデザイン賞受賞デザイン全件の紹介を中心に、「グッドデザイン・ベスト100」特別展示、ロングライフデザイン賞受賞展示、「GOOD DESIGN STORE by NOHARA」のポップアップショップ出店、タイ・インドネシアのデザイン賞および日本とASEANの友好協力50周年を記念した特別展示「ASEANデザイン展」、12組のベスト100受賞者によるトークなどを実施した。なお、受賞対象の全件展示については4年ぶりの実施となった。

会期：10月25日～29日

会場：東京ミッドタウン各所

総来場者数：24,407人



フォーカス・イシュー・レポート



ベスト100選考会



グッドデザイン大賞「52間の縁側」



GOOD DESIGN EXHIBITION 2023 (東京ミッドタウン)

受賞祝賀会・特別賞贈賞式

東京港区のグランドハイアット東京に受賞者を招き受賞祝賀会を実施した。あわせて大賞選出会を開催、ファイナリスト5件によるプレゼンテーションを受けて審査委員、受賞者による投票を実施、大賞を決定した。

会期：10月25日

会場：グランドハイアット東京

参加者：約1,200名

また、表彰主体による特別賞表彰状贈賞のため、特別賞受賞者を招き「特別賞贈賞式」を開催した。

会期：12月7日

会場：国際文化会館

参加者：約80名



受賞祝賀会：ステージ（グランドハイアット東京）



特別賞贈賞式（国際文化会館）

私の選んだ一品「デザインのよろこび」展

グッドデザイン賞審査委員の個人的お気に入りの最新受賞作をコメントとともに紹介する「私の選んだ一品」の展示をGOOD DESIGN Marunouchi にて行った。

会期：10月5日～11月30日

会場：GOOD DESIGN Marunouchi



私の選んだ一品展（GOOD DESIGN Marunouchi）

グッドデザイン賞2023ファイナリスト展

2023年度のグッドデザイン大賞候補となった5件を「踏み出すデザインの力」をテーマに深掘りして紹介する展示をGOOD DESIGN Marunouchi にて行った。

会期：2024年1月7日～30日

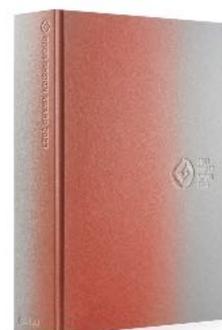
会場：GOOD DESIGN Marunouchi



ファイナリスト展（GOOD DESIGN Marunouchi）

出版

2023年度受賞デザイン全件を掲載した受賞年鑑『GOOD DESIGN AWARD 2023』を、2024年3月に発刊した。



受賞年鑑『GOOD DESIGN AWARD 2023』

グッドデザイン大賞・金賞・特別賞

グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）

- ・老人デイサービスセンター 52間の縁側／有限会社オールフォアワン＋株式会社山崎健太郎デザインワークショップ

グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）

- ・電動シェーバー Panasonic ラムダッシュ パームイン ES-PV6A／パナソニック株式会社
- ・ダブルクリップ スマートなダブルクリップ／ココヨ株式会社
- ・ポータブル電源 リユースバッテリー内蔵ポータブル電源／株式会社JVCケンウッド ほか
- ・ポータブルシアターシステム HT-AX7／ソニー株式会社＋ソニーグループ株式会社
- ・ゲームコントローラー Access コントローラー／ソニー・インタラクティブエンタテインメント
- ・感染症判定AI咽喉カメラ nodoca／アイリス株式会社
- ・シート建材 KMEW耐火シート／ケイミュー株式会社
- ・乗用車 プリウス／トヨタ自動車株式会社
- ・木造4階建て県営住宅 新浜町団地県営住宅2号棟建替事業／徳島県＋有限会社内野設計 ほか
- ・地域共生文化拠点 春日台センターセンター／t e c o株式会社＋社会福祉法人愛川舜寿会 ほか
- ・自治会の連合体が支える公民連携まちづくり QURUWA戦略／岡崎市＋QURUWA7町・広域連合会
- ・げそ天 エンドーのげそ天／エンドー＋杉の下意匠室
- ・市民科学プロジェクト NHKシチズンラボ／日本放送協会
- ・ECサイト ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」／株式会社クラダシ
- ・音声認識システム YYSsystem／株式会社アイシン
- ・活動 こども選挙／こども選挙実行委員会
- ・One Thousand Names of Zeng-wen River, 2022 Mattauw Earth Triennial/ Cultural Affairs Bureau, Tainan City
- ・孤独解消と自己実現のための治療回復共同体 ワンネス財団／一般財団法人ワンネス財団
- ・学校をつくるプロジェクトの集合体 神山まるごと高専／学校法人神山学園＋神山町

グッドフォーカス賞【新ビジネスデザイン】（経済産業省大臣官房商務・サービス審議官賞）

- ・オーガニック肥料 「土の薬膳」と地消地産コンポスト／株式会社 金澤バイオ研究所
- ・電気機関車 E500／Taiwan Railways Administration, MOTC＋東芝インフラシステムズ株式会社＋株式会社東芝
- ・ECサービス Yahoo!ショッピング「おトク指定便」／LINEヤフー株式会社

グッドフォーカス賞【技術・伝承デザイン】（中小企業庁長官賞）

- ・トング おてがるトング／一菱金属株式会社
- ・スパイスミル SUWADA シェイクミル／株式会社 諏訪田製作所
- ・手織りラグ Hand Woven Court／堀田カーペット株式会社

グッドフォーカス賞【地域社会デザイン】（日本商工会議所会頭賞）

- ・次世代型路面電車システム 芳賀・宇都宮LRT／宇都宮市＋芳賀町＋宇都宮ライトレール株式会社
- ・福祉介護・共同送迎サービスゴイッショ 福祉介護・共同送迎サービスゴイッショ／ダイハツ工業株式会社
- ・直売所 オーガニック直売所タネット／オーガニックベース

グッドフォーカス賞【防災・復興デザイン】（日本デザイン振興会会長賞）

- ・モバイルバッテリー リン酸鉄リチウムイオンバッテリー／エレコム株式会社
- ・宿泊施設 WEAZER 西伊豆／株式会社ARTH
- ・防災ツール マンション地震対応箱 MEAS／マンション地震対応支援協会

アウトカムがあるデザイン（審査委員長メッセージ）

今、私がつくっているものは誰のためにつくっているのか？

今、私が買おうとしている製品の素材や成り立ちは社会にとって良いのだろうか？

今、私の目の前にあるものは、自分にどんな力を与えてくれるのだろうか？

デザインという言葉が多くの場面で使われる時代になった今、私たちものを創り出せる人・企業・産業は、デザインをすることを自負して、同じ方向に向かって進んで行っているのでしょうか？

正解の無い複雑な世の中に対して、デザインは何が出来るのでしょうか？



齋藤 精一 審査委員長

ものづくりの裏には、沢山のコトのデザインが必ず存在していますし、コトのデザインを達成するために、必ずものづくりは存在します。

可能な限りアイデアの始まりから辿ってアウトプットまでを評価するグッドデザイン賞として、モノとコトのデザインという二元論で語るのではなく、「アウトカムがあるデザイン」というテーマのもとにさらに進化をしたいと思います。

現在では、余っているものを足りないところに届けることが情報のデザインによって可能になり、伝統的な手法やその地域だからこそその知恵が、伝承されたデザインとして高く再評価され始めています。

デザインを大量生産・大量消費するサイクルではなく、沢山の良質なデザインを沢山の人の手に届けることも、デザインを必要とする人に必要な量だけ届けることも可能になりました。

また、企業の評価基準も変わり、社会に貢献することで経済効果が示せる時代にもなりました。

そんな時代だからこそ、グッドデザイン賞はデザインに関わる人や企業、団体などが生み出したアイデアに目を向けて読み解くことで、これからのデザインと産業・暮らし・社会が共に進むべき方向を見出す役割に挑戦したいと思います。

ソーシャルデザインという言葉が多くの場で使われるようになった20年前、ナラティブ＝物語という社会的意義を求めた10年前、パーパスを企業価値やブランドとして定義した近年、こうした時系列の上に立ちながら、いまデザインに関わる全ての人が進むべき北極星を「アウトカム」として、皆さんのデザインを通して議論し見つけてまいります。

多様な視点や課題意識から生み出されたアイデアに満ちたデザインに出会えることを、審査委員一同楽しみにしております。

デザインの意思（審査副委員長メッセージ）

私たちの生きるこの世界は常に流動的で変化に富み、潮流のようなねりによって物事の価値、文化、人々の興味が常に移り変わっています。

デザインは、人と事物と周辺環境のより良い調和を見つけるためにあると考えると、今私たちはどのようにそれらが調和した風景を思い描くべきでしょうか？

経済を牽引する産業に貢献したデザインの顕彰制度として始まったグッドデザイン賞は、その長い歴史の中で多様な世相を反映して変容しながら、時代時代の価値観を写し出す「ものさし」のような役割を担ってきました。我々が審査を担うデザインの事物には、企業や

作者の想いや願いなどが宿っています。そうした「意思」はデザインを構成する要素の根幹となり、製品や取り組みを力強く駆動させる力となります。意思は取組の規模によって良し悪しを判断されるものではなく、例えば、身の回りのささやかな幸せを叶えるものであったり、実直な製品の適正進化であったり、自然環境や地球に暮らす全ての動植物への思いやりであったりと様々です。私たちはそうした意思の尊さを積極的に読み取りたいと思います。

また、意思の価値が重要視されると同時に、その意思が適切な方法、質の高い技術で実現・実装されているかどうか最も重要です。良いデザインとはプロジェクト全体を表す寛大な視野と細部にフォーカスされた飽くなきこだわりを併せ持つものです。

今年度もグッドデザイン賞を通して多様な願い、想い、提言に出会えることを楽しみにしています。



倉本 仁 審査副委員長

デザインの力（審査副委員長メッセージ）

「デザインの力を信じているか」とかつて聞かれたことがあり、その時、私は「信じている」と即答しました。でも今、本当にそうだろうかと思返す自分もいます。私が育った子供時代（1980年代）は今よりも、なんだか明るい未来に向かって進んでいるというような漠然とした感覚があったように思うのです。そしてその中に新しいデザインと、そこから生まれたムーブメントがありました。今、私たちの子供たちが生まれ育っているこの時代は、未来に向かって夢が持てる状況なのか、新しいデザインによって明るい未来を見せることができているのか。世界中を席卷したパンデミックの波。未知のウィルスの恐怖もさることながら、私たち自身が課す行動制限によって元気を失っていく社会。もう起こらないとどこかで信じ

ていた平和神話を打ち破る戦争の恐怖。じわじわと押し寄せる気候変動と災害。未来はもっと今より明るいなんて示せるのだろうか。そんな現状が私たちに突きつけられています。

でもモノを作り出す者として、もう一度、今この時代だからこそ「デザインの力を信じている」と言いたい。グッドデザイン賞は新たなテーマ『アウトカムがあるデザイン』。今年の成果を通して次年度のテーマを紡ぎ上げていくという試みが今年度からはじまります。常に今は過去から未来への通過点です。それぞれに信じ、望む未来を自分で手繰り寄せるための手段としてのデザイン。それを多くの人と共有し、未来を模索する場であって欲しいと思います。



永山祐子 審査副委員長

2023年4月4日

審査委員会

審査委員長 齋藤 精一 (クリエイティブディレクター)
審査副委員長 倉本 仁 (プロダクトデザイナー)/永山 祐子 (建築家)

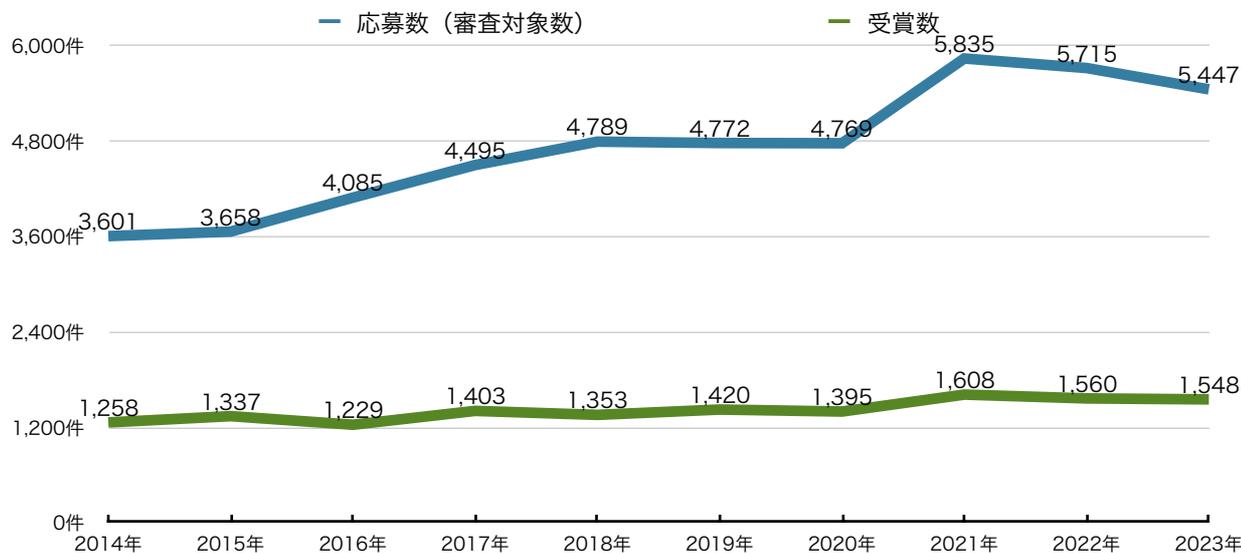
審査委員

● ユニットリーダー

ユニット01: 身につけるもの <ul style="list-style-type: none">●廣川 玉枝 クリエイティブディレクター/デザイナー服部 滋樹 デザイナー/クリエイティブディレクター濱田芳治 プロダクトデザイナー本多 沙映 デザイナー・ジュエリーアーティストCatharina Widjaja 実業家	ユニット02: パーソナルケア用品 <ul style="list-style-type: none">●村田 智明 プロダクトデザイナー/デザインプロデューサー秋山 かおり プロダクトデザイナー石川 俊祐 デザインイノベーション鈴木 啓太 プロダクトデザイナー	ユニット03: 文具・ホビー <ul style="list-style-type: none">●橋倉 誠 プロダクトデザイナー原田 祐馬 デザイナー山本 和豊 デザイナーライラ・カセム デザイナー/アートディレクターPraseuth Banchongphakdy コミュニケーション・デザイナー
ユニット04: 生活用品 <ul style="list-style-type: none">●柳沼 周子 バイヤー石橋 忠人 プロダクトデザイナー辰野 しずか クリエイティブディレクター/デザイナー山田 遊 バイヤーHyungkun Yoon ディレクター	ユニット05: 生活家電 <ul style="list-style-type: none">●玉井 美由紀 CMFデザイナー川上 典季子 ジャーナリスト北川 大輔 プロダクトデザイナー松本 博子 デザインディレクター吉泉 聡 デザイナーXiaoxi Shi インダストリアルデザイナー	ユニット06: 映像/音響機器 <ul style="list-style-type: none">●片岡 哲 プロダクトデザイナー石井 大輔 クリエイティブディレクター堀田 峰布子 サステナビリティ・ビジネスデザイナー渡辺 弘明 インダストリアルデザイナー
ユニット07: 情報機器 <ul style="list-style-type: none">●宮沢 哲 デザインディレクター/プロダクトデザイナー小野 健太 デザイン研究者/インダストリアルデザイナー清水 久和 プロダクトデザイナー太刀川 英輔 デザインストラテジスト/進化思考提唱者Manfred Wang プロダクトデザイナー	ユニット08: 産業/医療 機器設備 <ul style="list-style-type: none">●重野 貴 プロダクトデザイナー朝倉 重徳 インダストリアルデザイナー石川 善樹 予防医学研究者手籠 りか プロダクトデザイナー	ユニット09: 住宅設備 <ul style="list-style-type: none">●寺田 尚樹 建築家/デザイナー家成 俊勝 建築家田子 學 アートディレクター/デザイナー橋田 規子 プロダクトデザイナーCarl Liu デザインディレクター
ユニット10: 家具・オフィス/公共 機器設備 <ul style="list-style-type: none">●山崎 宣由 プロダクトデザイナー/UXデザイン研究者小林 マナ インテリアデザイナー柳原 照弘 デザイナー吉田 貴子 インテリアデザイナー	ユニット11: モビリティ <ul style="list-style-type: none">●森口 将之 モビリティジャーナリスト内田 友紀 都市デザイナー菅原 義治 クリエイティブディレクター根津 孝太 クリエイティブコミュニケーターBaonan Du プロダクトデザイナー	ユニット12: 建築 (戸建て住宅~小規模集合・共同住宅) <ul style="list-style-type: none">●手塚 由比 建築家秋吉 浩気 建築家/メタアーキテクト中川 エリカ 建築家藤原 徹平 建築家Chiyi Chang デザインディレクター
ユニット13: 建築 (中~大規模集合・共同住宅) <ul style="list-style-type: none">●駒田 由香 建築家岩月 美穂 建築家栃澤 麻利 建築家仲 俊治 建築家	ユニット14: 建築 (産業/商業施設) <ul style="list-style-type: none">●成瀬 友梨 建築家浅子 佳英 建築家/編集者丸山 優子 建築プロジェクトマネジャー山梨 知彦 建築家吉田 愛 建築家Chee Su Eing インテリア・デザイン・スペシャリスト	ユニット15: 建築 (公共施設)・土木・景観 <ul style="list-style-type: none">●伊藤 香織 都市研究者川西 康之 建築家/デザイナー/ファシリテーター倉方 俊輔 建築史家平賀 達也 ランドスケープアーキテクト山崎 健太郎 建築家Jian Liu 都市プランナー/デザイナー
ユニット16: メディア・コンテンツ <ul style="list-style-type: none">●河瀬 大作 プロデューサー上西 祐理 グラフィックデザイナー、アートディレクター小西 利行 コピーライター/クリエイティブディレクター佐々木 康晴 クリエイティブディレクター野崎 互 プロジェクトディレクターTnop Wangsillapakun デザイン・ディレクター	ユニット17: システム・サービス <ul style="list-style-type: none">●水野 祐 弁護士緒方 壽人 デザインエンジニア長田 英知 ストラテジスト林 千晶 プロジェクトマネージャーQiong Wu インタラクションデザイナー/インダストリアルデザイナー	ユニット18: 地域の取り組み・活動 <ul style="list-style-type: none">●飯石 藍 都市デザイナー田中 元子 グランドレベルデザイナードミニク・チェン 情報学研究者水口 克夫 アートディレクター山出 淳也 アーティストLi-Chin Kuo キュレーター、コミュニティ・プランナー
ユニット19: 一般向けの取り組み・活動 <ul style="list-style-type: none">●廣田 尚子 デザインディレクター田中 みゆき キュレーター/プロデューサー永田 宙郷 プランニングディレクター西村 浩 建築家・クリエイティブディレクター横田 響子 プロジェクトオーガナイザー	海外賞連携ユニット <ul style="list-style-type: none">シンガポール 小野 健太 デザイン研究者/インダストリアルデザイナータイ 小林 マナ インテリアデザイナータイ 秋山 かおり プロダクトデザイナーインドネシア 手籠 りか プロダクトデザイナー	

事業実績

グッドデザイン賞応募数・受賞数の推移



国内 都道府県別受賞件数

北海道	11	埼玉県	32	岐阜県	16	島根県	4	佐賀県	2
青森県	2	千葉県	14	静岡県	24	鳥取県	3	長崎県	4
岩手県	6	東京都	647	愛知県	58	岡山県	7	熊本県	11
宮城県	12	神奈川県	64	三重県	6	広島県	17	大分県	2
秋田県	2	新潟県	28	滋賀県	6	山口県	3	宮崎県	2
山形県	3	富山県	4	京都府	33	徳島県	2	鹿児島県	4
福島県	4	石川県	6	大阪府	146	香川県	3	沖縄県	5
茨城県	1	福井県	10	兵庫県	30	愛媛県	4		
栃木県	8	山梨県	3	奈良県	2	高知県	6		
群馬県	5	長野県	9	和歌山県	3	福岡県	27		

海外 国・地域別受賞件数

オーストラリア	1	ドイツ	4	マカオ	1	英国	1
ベルギー	1	香港	12	シンガポール	4	アメリカ合衆国	42
カナダ	1	インド	3	韓国	21	日本	1,129
中国	178	インドネシア	15	台湾	118		
デンマーク	2	ラオス	2	タイ	30		

スケジュール

4月4日 - 5月24日	グッドデザイン賞およびロングライフデザイン賞の応募受付期間
4月4日 - 4月28日	ロングライフデザイン賞ユーザーからの推薦期間
6月1日 - 26日	一次審査期間
6月27日	一次審査結果通知
7月5日 - 8月17日	二次審査期間
8月2日 - 8月4日	二次審査会、ベスト100選考会
8月18日	二次審査結果通知
9月15日	グッドデザイン・ベスト100デザイナーズプレゼンテーション
9月15日	特別賞審査会
10月5日	受賞発表（グッドデザイン賞、グッドデザイン・ベスト100、グッドデザイ金賞ほか特別賞）
10月25日 - 29日	GOOD DESIGN EXHIBITION 2023
10月5日 - 11月30日	「私の選んだ一品」展
12月7日	特別賞贈賞式
1月7日	ファイナリスト展
2024年3月	受賞年鑑「GOOD DESIGN AWARD 2023」発刊



公式ウェブサイトリニューアル

約9年ぶりとなるグッドデザイン賞公式ウェブサイトのリニューアルを実施した。閲覧者にとっての理解のしやすさを重視し、特に情報構造設計に力点を置き開発を進めた。閲覧者層を大きく3セグメントに分類し、それぞれに対して適切な情報が提供できるようコンテンツ整備を行うとともにより広い層にデザインへの興味を持ってもらうため、オウンドメディア「g Good Design Journal (ドットジーグッドデザインジャーナル)」を本サイトに実装した。また、不十分だったモバイル機器への対応も今回のリニューアルで大幅に改善し、2023年4月4日に公開した。



グッドデザイン賞公式ウェブサイト

オウンドメディアによる情報発信

主にグッドデザイン賞の受賞対象と受賞者を紹介し、デザインへの関心を高め、グッドデザイン賞のファンを増加させることを目的として各種情報発信活動を展開している。

2023年度は、新たにグッドデザイン賞情報を発信するオウンドメディアとして「g Good Design Journal」を開始。グッドデザイン賞の最新情報を随時紹介する「GOOD DESIGN REPORT」、グッドデザイン賞受賞者を訪ねデザインの裏側について明らかにする「グッドデザイン探訪」など4企画を立ち上げ、31本の記事を日英両言語で公開し、11万PVを獲得した。

「Instagram」では、グッドデザイン賞受賞対象を1日1件ずつ紹介する記事を掲載し、フォロワー数は前年度より6千人以上増加し、5万6千人を超えた。「Facebook」もフォロワー数が4万人弱を数えるほか、「YouTube」(登録者数8千人弱)、「note」(フォロワー数9千人強)でも継続的な情報発信を行なっている。



ドットジーグッドデザインジャーナル

海外に向けた情報発信

グッドデザイン賞の海外における認知度をさらに高めるため、国際的なメディアパートナーと協力して応募促進と広報活動を行なった。特に中国のデザイン・ウェブメディア「日本設計小駅」と台湾のデザイン・カルチャー誌「秋刀魚」との連携により、応募期間中にオンラインセミナーを開催し、グッドデザイン賞特集ページを通じて露出を増やした。さらに受賞発表時には、公式ウェブサイトですら受賞対象一覧を公開し、国際的に受賞結果を発表した。また、「秋刀魚」とはポッドキャスト企画を展開し、台湾のインフルエンサーを迎え、日本のデザイナーや建築家と共にデザインについての議論を収録・公開した。現在までに3シーズン合計22回の番組を配信し、平均ダウンロード数は約1.1万回に達している。

2024年3月には、中国・深圳で開催された「Design Shenzhen 2024」展示会に中国国内の受賞対象を展示し、現地デザイン業界との連携やグッドデザイン賞についての理解を深める機会となった。

また、NHK Worldによるグッドデザイン賞の審査会及びWDO世界デザイン会議東京2023への密着取材があり、2024年3月に約50分のテレビ番組「Tomorrow by Design」が制作・放映された。



「日本設計小駅」微博 (Weibo)グッドデザイン賞ページ



台湾「秋刀魚」ポッドキャスト企画



NHK World 「Tomorrow by Design」



Design Shenzhen 2024

デザイナーデータベースの構築

グッドデザイン賞事業を通じて蓄積されている膨大なデータのうち、主に「受賞ギャラリー」の情報を調査や研究のために活用するためのデータベース整備として、データマネージメント・プラットフォーム基盤の構築に過去3年間取り組んできた。2023年度は、所属する企業や立場を超えて、デザイナー個人に当人が担当した受賞デザインを紐づけることができる仕組みを作ることにより、デザイナーの実績を可視化し、モチベーションの向上にも寄与するべく「デザイナーデータベース」を構築した。

受賞ギャラリー内に受賞企業ごとに過去から現在までの受賞対象を閲覧できる機能を付加し公開したほか、受賞デザイナーが自身をデータベースに登録し、関わった受賞デザインを紐付けるため受賞企業に確認を申請、承諾を得た後、個人ページに掲載するシステムを構築し、稼働できる状態まで完了した。今後受賞デザイナーの情報登録促進を進め、データベースとしての充実をはかり広く周知をしていく。

②ロングライフデザイン賞事業

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞は、ユーザーから長年にわたり支持されるデザインを讃えるとともに、よいものを長く使い続けることの意義を社会に示す賞である。2023年度はユーザー推薦および製造者等から応募された104件の中から、審査の結果6件が受賞した。

受賞展では、ロングライフデザイン賞受賞製品も多く扱うGOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARAのポップアップストアに隣接した場所で、発売当時から現在に至る微細な変化等も見せる展示を行なった。



ロングライフデザイン賞受賞展

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員会

齋藤 精一 クリエイティブディレクター

倉本 仁 プロダクトデザイナー

筏 久美子 ギャラリーディレクター

菊地 優里 fennicaディレクター

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞 (日本デザイン振興会会長賞)

- ・塩 食卓塩 100g/公益財団法人塩事業センター
- ・タンポン ソフィソフトタンポン/ユニ・チャーム株式会社
- ・職業用ミシン 職業用本縫いミシン SL-700EX (初代機名シュプール 90) /JUKI株式会社
- ・輸液剤容器 テルパック/テルモ株式会社
- ・パーソナルコンピューター ThinkPad/レノボ・ジャパン合同会社
- ・Nシリーズ N-BOX、N-BOX+、N-ONE、N-BOX SLASH、N-WGN、N-VAN/本田技研工業株式会社

③国際連携事業

2023年度は、コロナ禍の影響が大幅に緩和され、グッドデザイン賞を中心とした国際交流活動が本格的に再開した。

千葉県で開催された二次審査会には、4年ぶりに海外からの審査委員を招聘し、対面での議論と交流を行った。また、受賞祝賀会においても海外委員を招き、日本のデザインについての理解を深めてもらう機会となった。



シンガポールSG Mark審査会 (4月 シンガポール)

デザイン賞連携・運営支援

2023年度のデザイン賞連携は、コロナ禍の影響により一部の国で変更があったものの、タイ・シンガポールインドネシアの3カ国での実施は継続された。フィリピンとラオスは隔年開催のため、2024年度の開催に向けて準備を進めた。二次審査会には、中国・台湾・韓国からの審査委員に加え、賞連携委員として、タ

イ・インドネシア・シンガポール・ラオスから審査委員が来日し、活発な議論と交流が行われた。これにより、各国のデザイン賞との連携をさらに深めることができた。

2023年度は、賞連携各国から59件が受賞となった。受賞展では、これらの受賞対象を紹介する特設コーナーを設置し、各国のデザインの優れた点を来場者に伝えた。

また、経済産業省の支援事業への協力として、コロンビアにおけるデザイン賞設立支援を行った。遠隔レクチャーを計3回（2023年7月・12月、2024年2月）実施し、二次審査会では、コロンビアからの視察団10名を受け入れた。また、受賞展ではコロンビア政府高官も招き、運営方法を学ぶ機会を提供した。



タイDEMark審査会（6月 パンコク）



インドネシアGDI審査会（6月 ジャカルタ）



コロンビア視察団二次審査会訪問（8月 幕張）

④広報・情報提供事業

日本デザイン振興会では、様々なパートナーと連携し、場の提供を通じたプロモーション活動を積極的に行っている。2015年からはGOOD DESIGN Marunouchiを開設し、展示会やセミナーなどを通じて様々なステークホルダーとともにデザインが持つ社会的価値を広く訴求している。

GOOD DESIGN Marunouchi

日本国内で初となる常設型の広報拠点としてオープンしたGOOD DESIGN Marunouchiは9年目を迎えた。2023年度は22年度末より開催し盛況となった公募企画展「不快のデザイン展」を皮切りに、外部及び共同企画展8本、独自企画展6本、ワークショップの合計15企画を開催、年度最多となる約8.8万人を超える来場を記録した。また、秋に世界デザイン会議特別イベントとして開催した「人新世のデザイン展」では、展示に合わせて期間中21組のクリエイターのトークイベントを開催した。

グッドデザイン賞関連では、前年度受賞デザインの中から「生活」に焦点をあてた展示、歴代コレクション展、審査委員が受賞デザインから「一品」を選び紹介する展示、ファイナリストに着目した初の企画展の計5企画を実施した。

新たなデザインやプレーヤーを発掘する試みとしてスタートした企画展公募は3回目を実施。ゲームをテーマにUXデザインの視点から人生を読み解く「人生で大切なことをゲームから学ぶ展」を選出し、老若男女が集う人気企画となった。

「街のデザイン拠点」として、大丸有環境共生型まちづくり推進協会との共催によるワークショップと街の写真展も開催。変わりつづける街並みのなかにある「丸の内らしさ」を考える機会を提供した。

2020年度コロナ禍の中でスタートした、自然の恵み豊かな地域で暮らしに根ざしたデザインに取り組むプレーヤーを紹介するオンラインプログラム「山水郷チャンネル」は引き続き継続し、18回の配信を行った。また、3回目となる「山水郷のデザイン展」を開催し、行政関係者をはじめ本テーマに関心をもつ多くの方が来場した。



GOOD DESIGN Marunouchi



山水郷のデザイン3 - 地域の価値の耕し方と伝え方



chaaairs! Dining Chair Exhibition 2023



日本空間デザイン賞2023展



土着の知 Local Techniques

2023年度開催のGOOD DESIGN Marunouchi企画展示

会期	名称	実施主体	入場者数
4/27 - 5/28	グッドデザインではじめる新しい生活	JDP	9,733
6/2 - 7/9	GOOD DESIGN COLLECTION 1950s-2020s	JDP	7,518
7/14-8/13	山水郷のデザイン3 -地域の価値の耕し方と伝え方	JDP	4,054
8/17-20	夏のワークショップ (4企画)	JDP+WS主体者	37
8/25-9/13	大丸有フォトアーカイブ みんなの写真展	エコツェリア協会 (大丸有環境共生型まちづくり推進協会) +JDP	896
9/16-9/30	Genderの世界線 東京藝術大学デザイン科課題成果展	東京藝術大学美術学部デザイン科	1,698
前期10/5-22・ 11/1-5 後期 11/8-30	私の選んだ一品2023 「デザインのよろこび」 -グッドデザイン賞審査委員セレクション	JDP	13,681
10/24-29	世界デザイン会議東京2023 開催記念特別イベント 人新世のデザイン [Exhibition & Talk]	JDP	727
12/3 - 11	chaaairs! Dining Chair Exhibition 2023 多摩美術大学 環境デザイン学科3年インテリア専攻	多摩美術大学環境デザイン学科	1,363
12/14-12/27	GOOD DESIGN Award2023 燕三条	燕三条地場産業振興センター	8,450
1/7-30	グッドデザイン賞2023 ファイナリスト展 踏み出すデザインのちから	JDP	2,408
2/2-15	日本空間デザイン賞2023展	日本空間デザイン協会+日本商環境デザイン協会	1,803
2/17-29	土着の知 Local Techniques Japan	サステナブル・ブランド ジャパン	1,585
3/2-11	PVC Award 2023展示会	塩ビ工業・環境協会/日本ビニル工業会/日本ビニール商業連合会/日本プラスチック製品加工組合連合会	1,743
3/15-4/14	第3回企画展公募選出展企画「人生の大切なことをゲームから学ぶ展」	株式会社たきコーポレーション+JDP	17,152

「山水郷チャンネル」配信実績 (Youtube 総視聴回数 12,600回)

#83	富川 岳(株式会社 富川屋 代表 / ローカルプロデューサー / しし踊り舞手)	#92	東野唯史 (株式会社ReBuilding Center JAPAN)
#84	阿部 航太 (デザイナー・文化人類学専攻)	#93	三田かおり (株式会社Retocos 代表取締役)
#85	木村敦子、水野ひろ子 (株式会社クラシカウンスル)	#94	年末スペシャル「井上岳一さん、ムサビと一体どんな地域デザインプロジェクトやってんの?」
#86	稲波伸行 (株式会社RW 代表取締役/株式会社菰野デザイン研究所 取締役/岡崎ビジネスサポートセンター デザインアドバイザー)	#95	前川雄一・前川亜希子 (有限会社まゑむき/デザイナー)

#87	上村大輔（株式会社上村考版 専務取締役／THE CIRCLE 株式会社 代表取締役）	#96	太田泰友（ブックアーティスト／OTAブックアート 代表・林業芸術社 代表）
#88	「山水郷のデザイン展3 地域の価値の耕し方と伝え方」 公開ミーティング	#97	三好大輔(映画監督／株式会社アルプスピクチャーズ 代表取締役)
#89	「山水郷のデザイン展3 地域の価値の耕し方と伝え方」 オープニングトーク	#98	松場登美(株式会社 石見銀山生活文化研究所 取締役 相談役)・松場 忠(株式会社 石見銀山群言堂グループ 代表取締役社長)
#90	家成俊勝（建築家・株式会社ドットアーキテツツ 代表）	#99	本城慎之介（学校法人軽井沢風越学園 理事長）
#91	ミネシゴ（編集者・アタシ社 代表）		

⑤地方自治体等との連携事業

ユネスコデザインユネスコデザイン都市である神戸市とは、市民へのデザインの理解と浸透を支援する事業を2018年から毎年実施している。2023年度は同年度グッドデザイン賞受賞の「神山まるごと高専」と「神戸市東遊園地」の当事者を招いたトークイベントを、2024年3月に神戸市のKITOで開催した。

同じくユネスコデザイン都市である旭川市とは、毎年6月に開催している「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」に協力し、「あさひかわデザイン会議」への参加などを行った。また、旭川市が初となる「チーフ・デザイン・プロデューサー」の任命や、2024年秋に「ユネスコデザイン都市会議」の招致決定への支援も行った。

2025年に開催される大阪・関西万博においては、博覧会協会内部に発足した「Expo Outcome Design Committee」のアドバイザーとして、運営参加特別プログラム「Co-Design Challenge」を協力し、2023年度は12事業者が選定された。

大阪市が2022年にオープンした大阪中之島美術館で開催した「開館1周年記念展：デザインに恋したアート♡アートに嫉妬したデザイン」の原案と共同企画を行い、2023年4月から2ヶ月間で31,785人（予算比:123%）の来場者を集めた。



グッドデザイン神戸 トークイベント



デザインに恋したアート♡アートに嫉妬したデザイン



あさひかわデザイン会議

公益目的事業2

（デザインに係る人材の育成に関する事業）

①国際デザイン・リエゾンセンター事業

東京ミッドタウン・デザインハブに設けられた国際デザイン・リエゾンセンターでは、デザインハブ企画展関連セミナーのほか、国内外のデザイン関連機関やデザイン教育機関の事業の推進、各種のデザイン活動の促進、デザイン人材育成支援を目的とするセミナーやシンポジウム、ワークショップなどを展開している。2023年度は20-30代のテック系を中心としたデザイナーが連携するコミュニティである一般社団法人Designshipがリエゾンセンターの加盟機関に加わったほか、オーストラリア・Monash University, Art Design & Architectureのコミュニケーションデザイン学科の学生約30名の東京滞在製作に会場を提供した。また、2024年3月開催の「TOKYO CREATIVE SALON」では昨年度に引き続きトークイベント会場を提供した。

2023年度開催の主なセミナー、シンポジウム、ワークショップ

実施日	名称	実施主体
5/24	ワールドインテリアウィークジャパン2023 デザインセミナー	World Interiors Week in JAPAN実行委員会
5/28	日本のデザイン いまとこれから -プロダクトデザインを中心に-	国際交流基金
6/2	JAGDAデジタルメディア委員会 「グラフィック・レビュー企画」トークイベント「境界としてのグラフィックデザイン」	日本グラフィックデザイン協会
9月・12月	MAKING as THINKING 「つくる」という「考える」方法	ダイヤモンド社
9/16	「#つなげプロジェクトオレンジ」キックオフミーティング Tsunage Project Orange:Kick off Meeting	日本骨髄バンク
9/24ほか	Next Eco Design 2023 エコデザインワークショップ	日本インダストリアルデザイン協会
11/27-12/7	Monash Design Study Tour, Japan	Monash University
1/12ほか	TCL-多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム	多摩美術大学
1月/2月/3月	認知科学からデザインを考える、社会人ゼミ。	デザインシップ
2/26	21_21クロストーク vol.6 展覧会ディレクターズバトン 「もじ イメージ Graphic 展」×「未来のかけら：科学とデザインの実験室」	2121 DESIGN SIGHT
3/16	TOKYO CREATIVE SALON 「日本のクリエイティブにおける美意識を考える」	東京クリエイティブサロン実行委員会



日本のデザイン 今とこれから トークイベント



多摩美術大学クリエイティブ
リーダーシッププログラム



21_21クロストーク vol.6 展覧会ディレクターズバトン

②WDO世界デザイン会議東京2023の開催

日本デザイン振興会の加盟する国際デザイン団体の1つであるWorld Design Organization (WDO) の総会を含むカンファレンス・イベント「WDO世界デザイン会議東京2023」を34年ぶりに日本で開催した。開催にあたっては、実行委員会を日本デザイン振興会内に設置し、毎月定例会議を開きながら、企画を推進した。本会議では、テーマである「DESIGN BEYOND」を軸に、地球環境の問題 (Planet)、テクノロジーの進化(Technology)、に対応してデザインは何を目指すべきか、また、それに伴って求められる新たな人間性(Humanity)、そしてそれらを社会実装するためにどのような政策 (Policy) が求められるのか、について話し合われた。

開催概要

会期：10月27日～29日

会場：千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュート (10月27日)
六本木アカデミーヒルズ (10月28日・29日)



WORLD DESIGN
ASSEMBLY
TOKYO 2023
DESIGN BEYOND

開催テーマ：DESIGN BEYOND（あたらしい世界のためのデザイン）
参加者数：1,171名（現地参加886名/オンライン視聴285名）
参加国・地域数：39

DAY1（10月27日）：研究・教育フォーラム
基調講演、論文発表、ポスター展示、パネルディスカッション、
スポンサー企業・関連団体展示

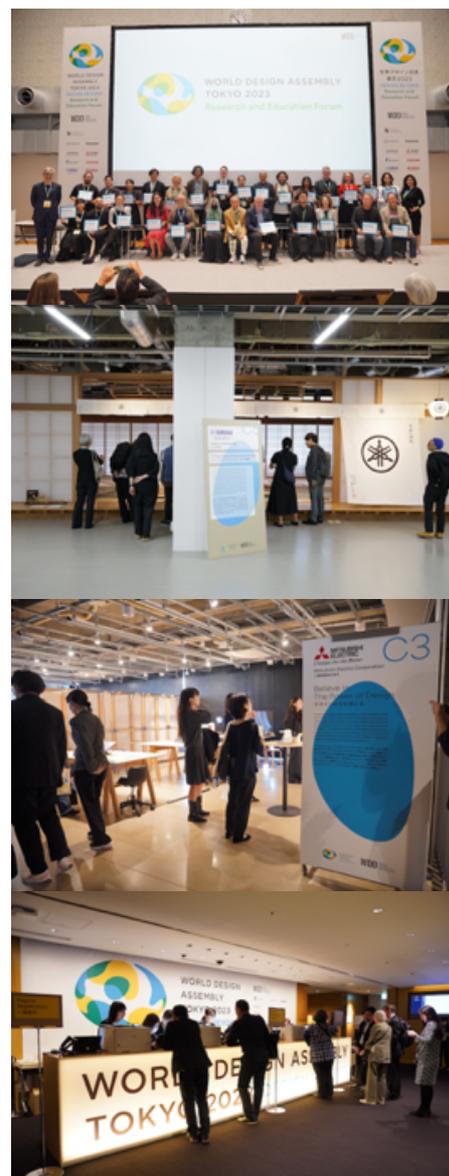
DAY2（10月28日）：デザイン・カンファレンス
基調講演、イノベーション・セッション、分科会パネルディスカッション
統括セッション

DAY3（10月29日）：WDO総会
各事業報告、会計報告、次期WDO理事選挙

本会期中は、WDOの加盟メンバー関係者を中心に239名の海外参加者があり、同時開催されていたグッドデザイン賞受賞展にも多く来場した。国際機関日本アセアンセンターとの協業により、日本ASEAN友好協力50周年事業の一環として、受賞展会場内に「ASEAN PAVILION Design for Change」を設置し、アセアン諸国のデザインを紹介した。また、本会議のアセアンからのスピーカー招聘に際して協力を得た。

DAY1の会場となった千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュートは、墨田区の協力があり、10月28日・29日は会場を一般開放して引き続き展示とトークイベント・ワークショップも行った。

プレ・イベントとして、6月16日～7月30日に、デザインハブにおいて、登壇者やスポンサー企業の最新のデザインの取り組みや考え方を紹介する展示「Design Beyond - あたらしい世界のためのデザイン -」を開催し、機運醸成をはかった。また、会議で話し合われた内容を振り返り、総括するために3月1日にDAY2の統括セッションパネリストが再集結し、アフター・トークイベントを行なった。ここまでの内容詳細を全て収録し、3月末に「WDO世界デザイン会議東京2023報告書」を制作した。



WDO世界デザイン会議東京2023 プレイベント



③グッドデザイン・ニューホープ賞事業

クリエイターを目指す大学・教育機関の学生及び卒業・修了後間もないクリエイターのデザインの作品・プロジェクト・研究を審査・顕彰することにより、新たなクリエイティブ人材の発掘とキャリア蓄積の支援を目的とした「グッドデザイン・ニューホープ賞」の第2回を開催した。齋藤精一審査委員長、永山祐子審査副委員長の他、以下の審査委員を迎え、審査を行なった。

カテゴリー	応募数	受賞数
物のデザイン	201	41
場のデザイン	107	13
情報のデザイン	39	9
仕組みのデザイン	68	15
合計	415	78

審査委員	
三宅 一成	小嶋 紗代子 (良品計画) 丸山 幸伸 (日立製作所)
千葉 学	西川 日満里 (ツバメアーキテクト)
井上 裕太	八木 泉 (ソニー)
佐々木 千穂	吉田田 タカシ (アトリエ e.f.t.)

2023年3月～7月にかけて応募を受け付け、全国の大学・専門学校・高専など、100の学校から415件が寄せられた。関東と関西からの応募が全体の約8割を占めているものの、昨年度に比べ、関東以外からの応募が増加した。

地域	割合	昨年比
北海道	1.4%	+0.5%
東北	2.2%	+0.5%
関東	54.9%	- 3.5%

地域	割合	昨年比
甲信越	1.2%	- 0.5%
東海	4.1%	- 4.4%
北陸	2.4%	±0

地域	割合	昨年比
関西	25.1%	+5.5%
中国・四国	3.6%	+0.7%
九州	5.1%	+1.1%

8月25日の審査会で受賞作品78件を選定び、その中から各カテゴリーの上位2作品8件を「優秀賞」として選定した。11月18日に優秀賞8組のプレゼンテーション審査を公開で実施し、その後最優秀賞1件を発表した。

発表後、受賞祝賀会を開催し、受賞者・審査委員・大学教員・企業のデザイン部門関係者などで交流の場を設けた。

受賞者プロモーションの一環として、2023年10月25日～29日の間に六本木で開催されたグッドデザイン賞受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2023」においても、全受賞作品をパネルで紹介した。

さらに、2024年1月～5月にかけて、受賞者向けプログラムとして、「デザインの現場見学会」として2つのセミナーと、2回シリーズのワークショップ・プログラム、2回のフォローアップ・ゼミを開催した。受賞者がデザイン業界の第一線で活躍する専門家から直接学び、交流できる機会を提供するとともに、受賞者同士の交流を深め、将来のコラボレーションや情報交換につながる人的ネットワークを構築する場を提供した。



8月25日 審査会



11月18日 最終プレゼンテーション



11月18日 受賞祝賀会



グッドデザイン賞受賞展内のパネル展示



フォローアップ・ゼミ

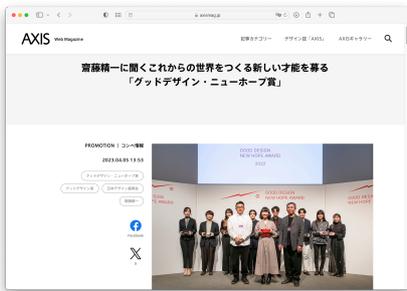


デザインの現場見学会：富士フィルム CLAYスタジオ

日付	内容
2023年10月25日～29日	「GOOD DESIGN EXHIBITION」パネル展示
2023年12月21日	デザインの現場見学会：富士フィルム CLAYスタジオ 参加者：36名
2024年1月27日・2月17日	フォローアップ・ゼミ 参加者：29名
2024年2月24日・3月9日	デザイン・ワークショップ（講師：原田祐馬）全2回シリーズ 参加者：12名
2024年3月14日～3月24日	「東京クリエイティブサロン」出展
2024年5月11日（予定）	デザインの現場見学会：下北沢街づくりツアー（講師：西川日満里）
2024年5月（予定）	デザインの現場見学会：ソニースクエア

さらに受賞者・受賞作品のプロモーション企画として、下記のようなメディア露出を図った。

- 2023年12月発売 雑誌「日経デザイン」2024年1月号に優秀賞8組の記事掲載
- 2024年5月15日～ ウェブ媒体「JDN」「登竜門」「デザインノトビラ」にて最優秀賞受賞作品を紹介する記事出稿
- 2024年5月31日～ ウェブ媒体「AXIS WEB MAGAZINE」にて受賞者を紹介する記事出稿



AXIS WEB MAGAZINE

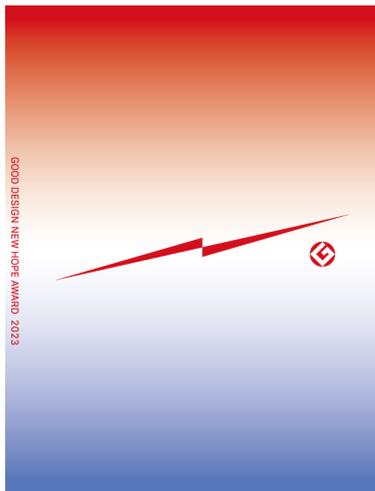


『日経デザイン』2024年1月号



JDN

2024年3月15日に、全受賞作品を収録した受賞作品集を刊行し、受賞者・大学教員・企業関係者などへと配布を行なった。



2023年度受賞作品集



④デザインに関する調査研究・情報発信事業

企業経営におけるデザイン活用実態調査

株式会社三菱総合研究所と共同で「第2回 企業経営におけるデザイン活用実態調査」を実施し、2023年9月に調査結果を公表した。デザイン経営がビジネス面にプラス効果を与える可能性が改めて明らかとなるとともに、デザイン投資は増強され、その将来的効果に対する期待も高まっていることがわかった。



第2回 企業経営におけるデザイン活用実態調査

デザイン白書

2023年における日本国内の企業、地域、行政等のデザイン動向を網羅的に把握することを目的とした経済産業省の調査研究事業（委託先：三菱総合研究所）に当会も協力した。同事業の一環として、デザイン業界の連携を促進するため、2024年3月15日に、経済産業省、三菱総合研究所、アクシス、デザインシップ及び当会の共催により「デザインの道導（ミチシルベ）-デザイン投資の世界的潮流から、日本の課題を考えるカンファレンス」を開催した。これらを元に「デザイン白書」が制作され、当会から2024年度上期に発行する予定である。



デザインの道導（ミチシルベ）-デザイン投資の世界的潮流から、日本の課題を考えるカンファレンス

⑤寄付講座開設事業

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科での「デザイン経営」寄附講座を、6月から7月かけて計14回開講した。経営やプロジェクト推進にデザインを活かす人材育成を目的に、グッドデザイン賞受賞5社の経営者やプロジェクトリーダー、企業や行政との協業実績があるデザイナーなどの講義からなるカリキュラムを編成し提供した。

出講者

須藤 慎（Management & design 代表）
沖田憲和（沖田 代表取締役社長）
下河原忠道（シルバーウッド 代表取締役）
福井良應（おてらおやつクラブ）
菅原義治（GKダイナミックス 代表取締役社長）
江島 宏（佐賀県 政策部さがデザイン企画監）
艾 淑婷（台湾デザイン研究院）
松井龍哉（フラワー・ロボティクス 代表）

公益目的事業3

（優秀なデザインを展示・提案することにより、生活者に豊かさや潤いを与える事業）

①東京ミッドタウン・デザインハブ事業

日本デザイン振興会、日本グラフィックデザイン協会、多摩美術大学 TUBの3機関から構成されるデザイン情報の発信拠点・東京ミッドタウン・デザインハブでは、外部企画を含むギャラリースペースでの企画展示やワークショップの開催、東京ミッドタウンとの共催による「東京ミッドタウン・デザイン部」活動、国際的なデザイン・リエゾンセンターを活用した活動などを複合的に展開した。

デザインハブ企画展示

2023年度は8本の企画展と恒例の夏のキッズワークショップを開催。合計来場者数は約48,000人となった。当会は、W世界デザイン会議のプレイベントとして同会議に協賛する国内企業8社をはじめ、会議に関わる2省庁、海外1機関、モデレーター・スピーカー9名による展示を行った。また、3年ぶりに開催されたグッドデザイン賞受賞展ほか、経済合理性を追求するのではなく、社会性のある創造と市民全般への教育を使命とする倫理性に富んだデザインを行うクリエイター等に光をあてる展覧会「PROGETTAZIONE (プロジェッタツィオーネ) イタリアから日本へ 明日を耕す控えめな創造力」を23年度末より開催した。

構成機関の合同展としては恒例となった「ゼミ展2024」を開催。全国からの公募により9校10ゼミが参画。全校合同のオープンディを実施し、来場者、出展学生、教員の領域を超えた交流を促進した。ワークショップは恒例の夏のキッズ対象に加え、春に大人を対象にしたワークショップを開催。どちらも300名を超える来場となり、どの回もほぼ定員を達成するなど、デザインを通じた学びへの関心の高まりを感じる機会となった。

外部企画展として国際交流基金が主催する海外巡回展「Japanese Design Today 100(現代日本デザイン100選)」を日本で披露する初の機会を提供した。

2023年度開催のデザインハブ企画展示

会期	名称	実施主体	動員数
5/20-28	特別展「Japanese Design Today 100(現代日本デザイン100選)」	国際交流基金	2,749
6/16-7/30	第103回企画展 WDO 世界デザイン会議 東京2023プレイベント「Design Beyond - あたらしい世界のためのデザイン -」	JDP	7,529
8/6-8/12	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズ・ワークショップ2023	東京ミッドタウン・デザインハブ	300
9/1-10/19	第104回企画展「日本のグラフィックデザイン2023」	日本グラフィックデザイン協会	12,120
10/25-10/29	2023年度グッドデザイン賞受賞展	JDP	7,886
11/20-12/24	第105回企画展「Tama Design High School」	多摩美術大学 TUB	7,403
1/10-2/25	第106回企画展「ゼミ展2024 デザインの学び方を知る」	東京ミッドタウン・デザインハブ	9,516
3/6-18	春のトーク&ワークショップ2024	東京ミッドタウン・デザインハブ	300
3/22-	107回企画展「PROGETTAZIONE (プロジェッタツィオーネ) イタリアから日本へ 明日を耕す控えめな創造力」	JDP	



ゼミ展2024 デザインの学び方を知る



PROGETTAZIONEイタリアから日本へ 明日を耕す控えめな創造力

ワークショップ企画

東京ミッドタウン・デザインハブでは毎年8月、気軽にデザインを体験する子供向けのワークショップ企画「キッズデザインウィーク」を開催している。2023年度は計13企画を実施、延べ300名が参加した。

2023年度実施のキッズワークショップ

実施日	名称	実施主体
8/6	よく見て、よく考えて、新しいペン立てをデザインしてみよう！	田崎咲絵 (プロダクトデザイナー、東京工科大学講師)、岡 桃子 (エデュケーションクリエイター)
8/7	ミッドタウン星をつくらう！	武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科研究室+OGチーム
8/8	端材とネジを使ったキーホルダー制作	日本インダストリアルデザイン協会
8/8	作って、遊べる！親子で楽しむ電車ワークショップ!!	日本インダストリアルデザイン協会
8/8	オリジナルの風鈴を作るう	大津芳美
8/9	端切れのぬいぐるみづくり	and sewing+Spedagi Japan
8/9	錫リボンに刻印してネームタグ (チャーム) をつくらう	諸岡宜永 (東京製ものづくりブランド「Assembled in Tokyo」代表)
8/9,10	夏だ！竹うちわをつくらう！	オープンハウス+ Spedagi Japan
8/11	夏休み!親子de わくわくワークショップ「あったらいいな、こんな店」	日本商環境デザイン協会
8/11	「光」ときみがあそぶとき、何が見えてくるのかな	多摩美術大学 生涯学習センター
8/12	プチプチでつくる！小さなきんぎょ座布団	日本インダストリアルデザイン協会+エコデザイン研究会
8/12	銀箔でフォトスタンドを作るう	小林大悟 (美術作家)
8/12	BOX ART いろいろな虫でつくる、いろいろな紙でつくる、いろいろな物でつくる宝箱	加藤 國康



夏のキッズワークショップ

また、春には「これまででない視点や学びの体得」をテーマに大人にも対象を広げたトーク&ワークショップ企画を開催。計8企画を実施、300名以上が参加した。

春のトーク&ワークショップ

実施日	名称	実施主体
3/6	ドローイングセッション-身体の思考とコミュニケーション	山口みいな(アーティスト) + TUB
3/10	スイス・バーゼルの学校 アーミン・ホフマンのグラフィックデザイン 基本原則のための初歩的なワークショップ	TypeShop_g + JDP

3/12	リエゾンセンター・ライブラリーのブックイベント 『ジカッデザイン』 刊行記念トーク「ジカッデザインの現在地とこれから」	日本インダストリアルデザイン協会
3/13	「折詰め会」 Vol. 139 テーマ：「2024年、デザインミュージアムってどう思う？」	折詰め会
3/14	夫婦喧嘩から商品開発まで使える！だれでも学べる「デザイン思考」 イナバデザインスクール in Tokyo Midtown Design Hub	イナバデザインスクール + JDP
3/16	Tokyo Creative Salon×日本デザイン振興会 共同企画 特別トーク「日本のクリエイティブにおける美意識を考える」	Tokyo Creative Salon + JDP
3/17	Enzo Mari による自分で作る家具 「autoprogettazione」 製作ワークショップ＜考え方とコンセプトの体験＞	Progettazione 展実行委員会+JDP
3/18	サスデイラボ ワークショップ「ペットボトルを再加熱してハイブリッドな何かを作ろう」	サスデイラボ

東京ミッドタウン・デザイン部

東京ミッドタウン・デザイン部は東京ミッドタウンとの共催による活動で、当会は企画・運営と事務局を担っている。2017年から始まった本活動は、東京ミッドタウンをはじめとする六本木エリアに仕事や暮らしの場を持つ方や来街者を対象に ①クリエイティブな視点を仕事や生活に活かす ②デザインを切り口としたサードプレイスの提供 を目的としたギャラリーツアーやトーク・ワークショップを開催。2023年度は対面とオンライン合わせて23回実施した。参加者の合計は延べ約2200名。

また、「リエゾンセンター・ライブラリー」は、JDPの蔵書や東京ミッドタウンが所有する書籍を活用して、ワーカーや施設来館者に対して、無料でデザイン関連書籍に触れることができる不定期のデザインライブラリーで、開室より5年目を迎えた。JDP蔵書やグッドデザイン賞審査委員の著書の他、今年度は各出版社よりデザイン関連書籍の新刊107冊を献本いただきライブラリーで紹介した。年間98日間開室し、4,350名が来室した。

2023年度東京ミッドタウン・デザイン部開催企画

実施日	名称
4/13	東京ミッドタウン「Street Museum 2023」アーティストトーク
4/19	「折詰め会」 Vol. 128 テーマ：「ラグビー×街×学生」
5/23	「折詰め会」 Vol. 129 テーマ：「豊かに亡くなっていくこと」
5/31	書籍『小田急は100年でどうなった？』 発刊記念トークイベント「ロマンスカーと沿線まちづくりのデザイン」
6/2	TOTOギャラリー・間 x 東京ミッドタウン・デザイン部「ドットアーキテツ展 POLITICS OF LIVING 生きるための力学」ギャラリーツアー
6/16	とらや 東京ミッドタウン店ギャラリー「見て味わう『和菓子の食品サンプル』」展 オンライン・ギャラリーツアー
6/28	「折詰め会」 Vol. 130 テーマ：「PMDD/PMSについて」
7/21	「折詰め会」 Vol. 131 テーマ：「これまでとこれからの私のキャリアについて」
8/09	多摩美術大学 TUB 28回企画展「マテリアル・デザイン・クッキング成果報告展 ～東レ株式会社x多摩美術大学 CMTEL ウルトラスエード®の素材探求～」ギャラリーツアー
8/23	「折詰め会」 Vol. 132 テーマ：「編集×〇〇」
9/22	「折詰め会」 Vol. 133 テーマ：「好奇心の寄り道」
10/13	TOTOギャラリー・間 x 東京ミッドタウン・デザイン部 西澤徹夫ギャラリーツアー

10/15	書籍『多拠点で働く 建築・まちづくりのこれから』（ユウブックス）刊行記念トークイベント西田 司×丸山裕貴×大沢雄城×藤沢百合×石飛 亮×杉田真理子×加藤優一×中山佳子 「さまざまな多拠点活動のあり方」
10/20	「折詰め会」 Vol. 134 テーマ：「組織とモチベーション」
11/24	「折詰め会」 Vol. 135 テーマ：「自分を取り囲むモノゴトの関係性を見つめ直す」
12/6	東京ミッドタウン・デザインハブ第105回企画展「Tama Design High School」ギャラリーツアー
12/6	21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3 × 東京ミッドタウン・デザイン部「Digital Happiness いとおしいデジタルの時代。」展ギャラリーツアー
12/16	ライブラリー企画『認知症世界の歩き方 実践編』出版記念 堀田聡子氏 × 寛裕介トークセッション&ワークショップ
12/18	「折詰め会」 Vol. 136 テーマ：忘年会+「積読本を崩す会 vol2」
1/22	「折詰め会」 Vol. 137 テーマ：「生成AIのちょうどいい関係をさぐる」
1/26	『建築家による「日本」のディテール モダニズムによる伝統構法と解釈の再現』刊行記念トーク「今なぜ日本のディテールなのか？」
2/15	「折詰め会」 Vol. 138 テーマ：「写真×生活 写真の今とこれから」
2/22	TOTOギャラリー・間 × 東京ミッドタウン・デザイン部 能作文徳展ギャラリーツアー

収益事業1

(商標権 (Gマーク) の使用促進に関する事業)

受賞者プロモーション広告企画の実施

2023年度のグッドデザイン賞受賞者をフィーチャーするため、「東洋経済」における広告企画として、記事広告を制作。

グッドデザイン大賞・金賞を含む受賞者3者のインタビューを掲載した。

グッドデザイン大賞

有限会社オールフォアワン 石井 英寿氏

グッドデザイン金賞

パナソニック株式会社 別所 潮氏

グッドデザイン賞

ミヨシ油脂株式会社 北村 陽垂氏、藤田 穂菜美氏

グッドデザイン賞が「ビジネスチャンス」である訳
デザインで社会課題解決、商品価値高める

日本デザイン奨励会
制作：東洋経済ブランドスタジオ
2024/03/25

デザインで、社会課題を解決し、収益や取り組みの価値を高めるグッドデザイン賞。この賞は必ずしもプロダクトの象徴だけを評価しているわけではない。アイデアやコミュニケーション、仕組みなど社会課題を解決する優れたアプローチもデザインの価値を認めます。果たしてデザインが生む価値とは何か。激変する社会の中で、デザインが果たす方についてどのように考えればいいのか。今回は2023年度グッドデザイン賞の受賞作品を通して、デザインについて考えてみたい。

東洋経済 広告企画

GOOD DESIGN STORE支援事業

グッドデザイン賞受賞商品の販売を通じた広報活動として野原グループ株式会社の経営による「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」と連携し、同ストアを通じた百貨店等での売り場企画を展開している。インバウンド需要や、客単価の向上により2023年度は過去最高の売上となった。東京以外でのPOP-UP出店を積極的に推進し、2015年より協力を行なっている西武池袋店での「くらしのデザイン展」では、テーマに合わせ60点以上のグッドデザイン賞受賞製品を紹介、一部販売も行った。

■販売

GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA (常設/KITTE 丸の内)

同 鶴屋百貨店 (Pop-up/熊本) 5月・24年1月

同 仙台フォーラス (Pop-up/仙台) 9月-24年2月

同 GOOD DESIGN EXHIBITION2023 (Pop-up/東京ミッドタウン) 10月

同 博多大丸 (Pop-up/福岡) 12月
同 遠鉄百貨店 (Pop-up/静岡) 12月

■展示

Good Design Good Over 50's 「くらしのデザイン展 2023 ～人生100年
ギフトされた時間～」

10月20日～11月5日

会場：西武池袋本店 7階



くらしのデザイン展 (西武池袋本店)

収益事業2

(受託に関する事業)

東京ビジネスデザインアワード

「東京ビジネスデザインアワード」は、企業が有する高い製造加工技術や独自の素材などを「テーマ」として各社から募集して、それらを活用した新たなビジネスプランやブランディングの提案をデザイナーから募り、双方のマッチングにより各社の事業推進を図るコンペティションである。当会は主催元の東京都とともに、2011年度からこの事業の企画運営を担っている。

12回目となった2023年度は、東京都内の中小企業17社17件の応募があった。審査の結果11件を選出した上で、全国のデザイナーに対して新規用途開発を軸としたビジネス全体のデザイン提案を募集、99件の提案が寄せられた。その中からマッチングの対象となった企業とデザイナー11件に対して、知財戦略・デザイン契約、広報戦略、販路開拓などに関する支援を伴走型で実施。最優秀1件と優秀2件をはじめとする各事案が事業化へ向けて進展中である。



**TOKYO DESIGN
BUSINESS DESIGN AWARD**

■スケジュール

4月13日 開催概要発表・テーマ募集

7月4日 テーマ審査会

9月5日 テーマ発表・提案募集

11月8日 提案一次審査

11月30日 提案二次審査

2024年1月11日 テーマ賞発表

2月8日 提案最終審査・結果発表・表彰式



■最優秀賞 (1件)

提案：時を自在にデザインする真鍮ブランドの提案

提案者：榎本清孝、村上麻衣子(株式会社トムテ)

企業テーマ：職人技で古美色を再現する「硫化燻し加工技術」

企業名：株式会社富士産業

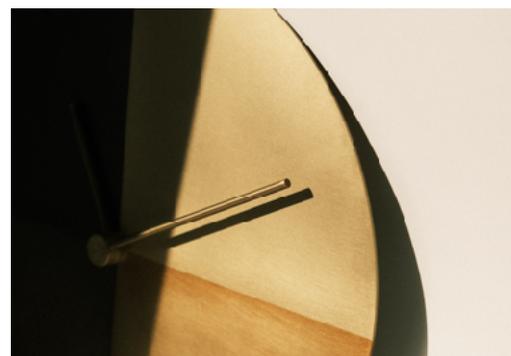
■優秀賞 (2件)

提案：自然に優しいゴムと廃棄材を融合させたプロダクトブランドの構築

提案者：土井智喜 (soell株式会社)

企業テーマ：独自のゴム配合設計と幅広い加工技

企業名：株式会社江北ゴム製作所



時を自在にデザインする真鍮ブランドの提案

提案：ワイヤーカット放電加工を活かしたアクセサリーブランドの提案
提案者：千頭龍馬、梅村隼多
企業テーマ：ワイヤーカット放電加工による微細・精密金属加工技術
企業名：有限会社オクギ製作所

■審査委員

山田 遊（バイヤー / キュレーター） 審査委員長
秋山かおり（プロダクトデザイナー）
谷口靖太郎（デザインエンジニア / ディレクター）
日高一樹（特定訴訟代理人・弁理士 / デザインストラテジスト）
坊垣佳奈（株式会社マクアケ共同創業者 / 取締役）
宮崎晃吉（建築家）



自然に優しいゴムと廃棄物を融合させたプロダクトブランドの構築



ワイヤーカット放電加工を活かしたアクセサリーブランドの提案

2023（令和5）年度事業報告（総務・管理業務）

1. 会務の実施（役員会等の開催）について

(1) 評議員会

回	日時・場所	議題等
第33回	2023年6月21日(水) 15:30-17:00 対面及びWEB会議 メイン会場: 国際文化会館 別館1F セミナー室D	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022(令和4)年度決算報告書(案)について ・規程改正(案)について <ul style="list-style-type: none"> (1)事務局組織規程 (2)職員給与規程 (3)旅費規程 (4)育児・介護休業規程 (5)在宅勤務の取扱いに関する規程 <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022(令和4)年度事業報告書について ・今年度のグッドデザイン賞事業現況報告について
第34回	2024年3月21日(木) 15:30-17:00 対面及びWEB会議 メイン会場: インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024(令和6)年度事業計画書(案)について ・2024(令和6)年度収支予算書(案)について ・規程制定及び改正(案)について <ul style="list-style-type: none"> (1)事務局組織規程改正 (2)会計規則改正 (3)デザイン研究・デザイン振興助成事業規程制定 <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度グッドデザイン賞審査委員、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員委嘱並びにグッドデザイン・ニューホープ賞審査員委嘱 について ・WDO世界デザイン会議東京2023について (関連)プロジェクト管理に関する報告 ・公益認定事業変更認定申請及び特定資産の基金取崩し申請について <p>その他</p>

(2)理事会

回	日時・場所	議題等
第45回 (臨時)	2023年5月15日(月) 書面及び電磁的記録による理事会	議題 ・「事務局等組織規程」、「職員給与規程」、「旅費規程」及び「育児・介護休業規程」の改正(案)について
第46回	2023年6月2日(金) 15:30-17:20 対面及びWEB会議 メイン会場: 東京ミッドタウン・カンファレンス ルーム5	議題 ・2022(令和4)年度事業報告書(案)について ・2022(令和4)年度決算報告書(案)について ・規程改正(案)について 在宅勤務の取扱いに関する規程 ・評議員会の招集(案)について 報告事項 ・今年度のグッドデザイン賞事業現況について ・次期評議員及び役員(理事・監事)の就任について
第47回 (臨時)	2023年6月21日(水) 対面及びWEB会議 メイン会場: 国際文化会館 西館4F セミナー室403/404	議題 ・代表理事及び業務執行理事の選定(案)について ・グッドデザイン・フェロー称号の贈呈候補者(案)について その他
第48回	2023年12月14日(木) 16:00-17:40 対面及びWEB会議 メイン会場:インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	議題 ・次期グッドデザイン賞審査委員長及び副委員長について ・公益認定事業変更申請及び基金の取崩しについて 報告事項 ・2023年度事業進捗状況について ・世界デザイン会議について その他
第49回	2024年3月6日(水) 15:30-17:00 対面及びWEB会議 メイン会場:インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	議題 ・2024年度事業計画書(案)について 2024年度グッドデザイン賞開催要綱(案)、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞開催要綱(案)、グッドデザイン・ニューホープ賞開催要綱(案)を含む ・2024年度グッドデザイン賞審査委員委嘱(案)、グッド

回	日時・場所	議題等
		デザイン・ロングライフデザイン賞審査委員委嘱(案)並びにグッドデザイン・ニューホープ賞審査委員委嘱(案)について ・2024 年度収支予算書(案)について ・WDO 世界デザイン会議東京2023実行委員会の解散について (関連) (1)事務局組織規程改正(案) (2)プロジェクト管理に関する報告 ・規程制定及び改正(案)について (1)会計規則改正 (2)デザイン研究・デザイン振興助成事業規程制定 ・評議員会の招集(案)について その他

(3)会計監査等

①監事監査:2023 年 5 月 31 日(水)

目的: 2022(令和 4)年度事業報告書(案)、2022(令和 4)年度決算報告書(案)

②監査法人監査:EY 新日本有限責任監査法人会計監査

(期末監査)

2023 年 5 月 12 日(金)、13 日(土)、18 日(木)、19 日(金)、20 日(土)、25 日(木)、30 日(火)

当会会議室

目的:2022(令和 4)年度決算処理

(期中監査)

2023 年 10 月 10 日(火)、11 月 8 日(水)、12 月 7 日(木)、

2024 年 2 月 7 日(水)、4 月 3 日(水)、4 月 10 日(水) 当会会議室

目的: 2023(令和 5)年度会計処理

2. 賛助会員の現状について

2023 年度末の賛助会員及び情報会員数は 171。(会費は広く公益事業に役立てている。)

近年は、会員企業等の経費削減や組織改編により会員数が漸減傾向にあり、2023 年度は 4 団体より退会届が提出された。その他、1 団体より入会届が提出された。

3. 後援、協賛事業について

2023 年度に当会が後援並びに協賛、協力の名義を提供した外部企画は、34 団体延べ 38 件に協力している。

(1) 供与先内訳

自治体及び その関連機関	デザイン専門団体	業界団体	民間企業	教育機関	海外機関	任意団体
13	6	8	8	1	1	1

(2) 事業内訳

デザイン展	見本市	デザインコンペ	セミナー・ワークショップ等	会議	その他
8	8	10	10	1	1

4. グッドデザイン・フェローについて

第 47 回理事会の議決により、下記 4 名に称号を贈呈（敬称略）
石島辰太郎、有吉 司、横川正紀、渡部行光

2023 年 12 月 7 日（木）国際文化会館にて 2023 年度グッドデザイン・フェロー称号贈呈式を開催した。（グッドデザイン賞特別賞贈賞式と併催）

5. 業務管理・調整について（規程、内規、業務調整等の実施）

(1) 各種規程・内規等の新設及び改正

年月日	規程等	実施事項	概要
2023 年 6 月 21 日	事務局組織規程	改正	第 3 条第 2 項 役職に「参与」を追加。 同 第 3 項 一般的な管理職の概念に一致させるため、課長以上を管理職とすると改正。
	職員給与規程	改正	第 8 条 通勤交通費について、支給上限額と支給対象外通勤距離を明記。 第 14 条 関係法令、他団体との水準との整合性を図り、円未満の端数については 49 銭以下を切り下げ、50 銭以上を 1 円に切上げる。

	旅費規程	改正	現行の規程水準では宿泊できないケースが出てきていることに対応するため、宿泊料の扱いは海外出張と同様に、旅行命令権限者より事前に承認を得れば、実費精算とする。 第 16 条ただし書きに「業務上の必要または天災その他やむを得ない事業により別表 1 に定める額を超える場合は、旅行命令権者の承認を受けた場合において、現に支払った宿泊料を支給する。」を追加。
	育児・介護休業規程	改正	2022 年 4 月から 3 段階で「育児・介護休業法」が改正されたことに伴い、有期雇用労働者の育児・介護休業取得要件を緩和(取得要件から「雇用された期間が 1 年以上を撤廃)、産後パパ育休の創設、育児休業の分割取得可。
	在宅勤務の取扱いに関する規程	改正	2023 年 5 月 8 日新型コロナウイルス感染症が感染症法上、2 類から 5 類に移行したことに伴い、在宅勤務の目的もコロナ対応から働き方改革の推進へ変更の上(第 2 条)、在宅勤務を制度的に継続するもの。 在宅勤務の回数は月 10 回の上限を明記。(第 5 条)
2024 年 3 月 21 日	事務局組織規程	改正	WDO 世界デザイン会議が終了したことに伴い実行委員会を解散するため、それに関する第 2 条第 2 項及び第 7 項を削除。
	会計規則	改正	2024 年 1 月から電子帳簿保存法が施行されたことに伴い、第 8 条第 2 項に「電子媒体による記録・保存する対象」を証拠書類まで拡大。
	デザイン研究・デザイン振興助成事業規程	制定	新たな公益認定事業の規程を制定。助成の対象分野、申請資格、助成金の金額等、必要事項を規定。

2024年3月31日	①スキャナによる電子化内規 ②国税関係書類に係る電子計算機処理に関する事務の手続を明らかにした書類 ③電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理内規 ④国税関係帳簿に係る電子計算機処理に関する事務手続を明らかにした書類(概要)	制定	2024年1月から電子帳簿保存法が施行されたことに伴い、関係する内規を制定。
------------	--	----	--

(2)各種業務調整

2023年10月、今後の事業を展開するに当たって目指すべき方向性を示すパーパス(デザインを、一人ひとりの力に。)を策定するとともに、2030年までに実行する事業方針として

- ・DESIGN PLAYGROUND
- ・DESIGN INSTITUTE
- ・DESIGN from JAPAN

という3つを打ち出し、具体的なアクションプランを定めている。

職員への浸透を図る取組として、役職員によるワークショップを2回実施した。

(役員研修、職員研修)

2023年度は下記の研修を実施した。

1. 役員・幹部職員研修

2023年6月26日 360度評価研修

2. 職員研修

2023年4月5日 新人事制度研修(業務目標設定研修)

2024年2月22日 業績評価・行動評価スキル研修

3月1日 電子帳簿保存法に関する研修

3月12日 契約及びプロジェクトマネジメント研修

1月～3月 eラーニング

・下請法入門コース

・知財入門コース

・ダイバーシティ&インクルージョン入門

(特許庁との人事交流)

官民交流を活用し、特許庁意匠審査官1名(2024年度までの2年間)を交流受入れ実施中。

(新型コロナウイルス感染症に関する措置)

2023年5月8日に新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類に移行したことに伴い、国家公務員のコロナに関連する勤務の取扱いが廃止されたことから、当会においても新型コロナウイルスに係るワクチン接種を受ける場合等の勤務に関する取扱い内規は廃止した。

6. 行政当局等による監査、立入検査等について

2023年度の実施はなかった。

7. 資産管理の現状

(1)保有資産

今年度は早期償還・満期償還債券が各2本、新規購入債券はなし。評価額は、前年度末に対して、基本財産・特定資産において減少、投資有価証券においても減少した。運用利息は、前年度に対し減少した。

(2)基本財産・特定資産の構成割合と評価額・運用利息

	資産割合			評価額(円) (3.31.現在)	利息(円) (年間)
	預金	仕組債	国債・地方債・社債等		
2019年度	3.1%	6.5%	90.4%	1,581,673,430	21,801,972
2020年度	3.2%	6.5%	90.3%	1,546,854,820	23,413,060
2021年度	3.3%	5.9%	90.8%	1,492,527,410	21,438,589
2022年度	3.5%	6.0%	90.5%	1,408,956,150	20,904,977
2023年度	11.0%	5.9%	83.1%	1,350,793,170	20,271,643

8. 公益認定事業変更及び特定資産「人材開発基金」及び「国際事業基金」の取崩し

政府を始めとするステークホルダーからの当会に対する期待の一層の高まりに対応するため、人材育成事業、国際事業を拡充強化(公益認定事業の変更)と、併せて、それらの事業実施のための費用は必要に応じ基金を取崩し、活用することについて内閣府に申請した。審議の結果、2024年3月18日付で承認された。

公益認定事業変更内容・・・従前の公益目的事業2 デザインに係る人材の育成に関する事業 に「デザイン体験プログラム普及促進事業」及び「デザイン研究・デザイン振興助成事業」を追加し、内容を再編・整理。

9. 国内外におけるGマーク関連商標登録の現状

商品分野における「Gマーク」商標登録に加え、2023年度に開催した「WDO 世界デザイン会議東京 2023」事業で使用するロゴマークによる商標出願に取り組んだ。

(1)国内

- ①「WDO 世界デザイン会議東京 2023」におけるロゴマークによる商標登録を4区分に対して出願した。
- ②国内「Gマーク」商標(登録番号:第2601781号)の登録期間満了を迎えたため、10年間の登録更新手続きを行った。

(2)海外

- ①香港「G マーク」商標(登録番号:第 302941191 号)の登録期間満了を迎えたため、10 年間の登録更新手続きを行った。
- ②2014 年 7 月にインドへ申請していた「G マーク」証明商標(26 区分に対して申請)に対し、再審査のための第二次審査報告書への回答を提出した。現在も審査継続中。
- ③2020 年 10 月に海外 10 か国・地域において申請していた、第 35 類及び第 42 類における「G マークとロゴ GOOD DESIGN」の商標出願は、昨年度に続き、現在もアメリカ、タイにおいて審査継続中。過去の状況は、2021 年 9 月にトルコ、ドイツ、シンガポール、香港、台湾において登録、2022 年 3 月にインド登録断念、2022 年 8 月にインドネシア、2022 年 10 月に韓国にて登録済み。

10. 業務効率化、DXの推進

2021 年度より DX とともに業務プロセス改革に精力的な取り組みを開始し、2023 年度は楽楽精算を導入し、精算・支払業務の効率化と精度向上とともにインボイス制度、電子帳簿保存法への対応を実施した。IT 環境面においては設計が不十分で管理が疎かだった社内ネットワーク環境を IT-BCP も考慮に入れ一新し、セキュリティの強化、無線環境の安定化を実施し利便性の向上を実現した。これまでの施策推進状況をベースにして 2024 年度以降の IT 中期計画(2024 年～2026 年)の見直しを実施し、2024 年度はこれまで実施した施策を活用した生産性向上と IT 資産管理、セキュリティの高度化を推進するとともに、AI の法人利用に向けた調査を開始する。

【2023 年度実績】

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
全体共通	▲バートナ選定・契約 施策実行と結果検証															
謝金管理業務改善	ファイルサーバ停止			ファイルサーバ廃棄済み						謝金管理・・・2024年にリスケ						
リモート環境見直し	現状業務の詳細確認			方向性、対応方法検討						サービス探索						
インボイス制度	UTM導入			稼働済み						サービス探索						
	EDR導入			導入済み												
	リモート環境見直し			導入済み												
	インボイス制度			準備(実現方法確認、規程見直し確認、周知徹底)						【用語説明】 UTM : Unified Threat Management EDR : Endpoint Detection and Response SSO : Single Sign On						
新ネットワーク構築	電子帳簿保存法			準備(実現方法確認、規程見直し確認、周知徹底)						施行実施						
ベンダ探索	ベンダ探索			全体設計						施行実施						
事務所WiFi	事務所WiFi			設計、サービス探索、移行手順検討、施行						総務部先行移行						
電子契約・・・リスケ予定	電子契約			要件確認						説明会 テスト 移行済み						
	クラウドPBX・・・未実施			サービス探索、テスト						未実施						
	SSO(シングルサインオン)・・・未実施			サービス探索、テスト						未実施						
	資産管理、監視強化			設計、サービス探索、移行手順検討、インプリ						未実施						
メールセキュリティ対応(完了)	メールセキュリティ対応(完了)			高度化サービス適用						稼働システム定着化(楽楽精算)						
IT-BCP策定	IT-BCP策定			新規支払先						固定資産関連申請						

【2024年～2026年 IT 中計】

1. 推進してきた施策の定着化による生産性向上
2. ガバナンス、コンプライアンス向上
3. 老朽設備のリニューアル(入退室管理システム等)

分類	2024年		2025年		2026年
	上	下	上	下	
事業PF	DMP、DDB構築、若手人材育成対応等は事業部で実施				
経営PF	労務、給与、報酬、法定調書設計(勤怠、謝金) 現状把握 ワークフロー追加 固定資産申請 Filemaker取扱議論	リエゾン利用申請	アルバイト管理等全体をどうするか検討促進) 設計、要件定義、サービス検討 一部他のツールに移行検討		本番
法人PF	利便性、効率性、安全性向上(IT資産管理サービス(監視)導入) オフィス環境改善(入退室管理システムリニューアル、クラウドPBX検討(スマホ内線化サービス導入) SOC高度化 法人向け生成AI導入調査・検討	SSD、IT資産管理 新メール導入要否検討			
ガバナンス	アカウント管理、標的型メール訓練				
定着化	教育(セキュリティ、BCP等) Box、Garoon、楽楽精算、オフィスステーション、リモートアクセス等稼働システムの定着化 後任育成と引継ぎ				